

島根県立大学学生研究奨励金事業 研究結果概要書

島根県立大学・国際関係学部 3年 末本山次

1. 研究テーマ

海の見える文化ゾーンを活性化することにより雇用創出と人材育成をはかろう！

2. 研究概要

本研究は、浜田市野原町にある「海の見える文化ゾーン」内にある4つの施設の活用と、そこに関係する人々が相互に行き交い、交流することにより、海の見える文化ゾーン全体の活性化を実現し、県大の教育資源の活用によりリカレント教育（リスキリング）で人材育成をはかり、同時に、県大生にジョブクリエイション（新しい仕事をつくりだす）を行うしくみを考えるものである。

このエリアには4つの立派な施設がある。それらはすべて至近距離に立地しながら、相互に人が往来することはほとんどなく、エリアは常に閑散としている。エリアを活性化させるために、島根県立大学という教育機関をフル活用することが1つのポイントとなる。

また現在、このエリアには県大生がアルバイトできるような職場がなく、アルバイトのためには山を降りる必要がある。大学生がエリア内にとどまり、交流や活動する所がないこともエリアの活性化を妨げる要因となっている。授業の隙間時間に稼げるような仕事があれば、経済的に困窮している学生にとってとてもありがたいことであると同時に、仕事の企画力や経験値を積めることにも繋がる。

3. 研究方法

今回、リカレント教育の需要にフォーカスしたアンケートを実施（Google Form 使用）（実施期間：2023年12月1日～2024年1月10日）。配布した場所：島根県立大学浜田キャンパス、浜田市世界こども美術館、浜田市福祉総合センター、浜田市子育て世代包括支援センター

4. 調査結果

回答者数：51人（参考：エリア内の教員を除く職員は総数158人）

- ・ 70%の方に学習に意欲（51人中36人は子育て世代）
- ・ 特に心理学などの教養講座、英語、韓国語に興味あり
- ・ 時間帯は6限目（18:00～19:30）に需要
- ・ 大学生たちのベビーシッターの活動は、英会話、ダンス、絵本読み聞かせが人気

5. まとめ

このエリアの施設の活用および交流にはまだまだポテンシャルがある（例：こども美術館ロビーでの大学生のコンサートやカフェ開催、大学生による老人へのスマホ活用講座の企画など）。海の見える文化ゾーン全体の活性化はさらなる可能性があると考えられる。